

開催期間:

2012.6.10

一回目の送付の際は文字は黒で 2回目以降は修正部分を赤字にしてください

スタッフ:

10 Members

簡潔な短い文章にしてください。やっつけ仕事禁止

支援者:

講師およびアドバイザー 高森俊(創造美育協会 事務局長)

アシスタント 幼稚園園長

会場 小峰窯元センター

簡潔な短い文章にしてください。やっつけ仕事禁止

予算:

2600 US dollar

簡潔な短い文章にしてください。やっつけ仕事禁止

利益／損失:

None

簡潔な短い文章にしてください。やっつけ仕事禁止

誰の為に？

地域に住む子どもたち 12500 人。と、その親

主語を忘れないように「我々 JCIOOは、」「我々委員会は、」です。

## 目的:

JCI 真岡は、地元で暮らす親子に、個人開発の場を提供するために以下の事を実施した1)JCI 真岡は、子どもたちが自由な創造力を持てる機会を提供する2)子どもたちの成長には、親の手助けが必要である そのために、JCI 真岡は”創造美育”の理念を使い、親たちに子育てを考えなおす機会を提供するこれらを実践することは、参加者の自立を促し、しいては地元の平和や、日本と世界の平和に繋がる

3 行程度 400 字以内

### 「創造美育の理念」

創造美育は、久保貞次郎氏が提唱した美術運動です

久保氏は、欧米の渡米の際に多くの児童画と出会い、日本の児童画との表現の違いに衝撃を受けた

それは、絵の中にある自由な自己表現の違いである

久保氏は、芸術を通じて子どもたちの創造力、自立心を養う理念を考えた

久保氏は、子どもの意思を尊重し、表現の自由を保障し激励する美術教育を実行していた

これらが、創造美育の根幹である

※創造美育は、小学校・中学校の美術教育とは全く違う理念である

そのために、日本では、あまり普及が難しい現状にある

現在は、久保氏を次ぐ高森 俊氏が、日本各地で講演活動を行っている

### 【久保貞二郎氏とは】

1909 年 生まれ。

1938 年 美術研究・収集のために欧米にわたる

1952 年 「創造美育協会」創立に参加。「創造美育」の理念を作成する

多くの美術家と交流し、多く作品作成の手助けを行う

ヴェネツィア・ビエンナーレ、コミッショナー、短期大学の学長を歴任

美術評論家

**【久保貞二郎氏とは】**

1909年 生まれ。

1938年 美術研究・収集のために欧米にわたる

1952年 「創造美育協会」創立に参加。「創造美育」の理念を作成する  
多くの美術家と交流し、多く作品作成の手助けを行う

ヴェネツィア・ビエンナーレ、コミッショナー、短期大学の学長を歴任  
美術評論家

[背景]

私たちが活動する地域には、久保貞二郎氏という著名な人物がいた

久保氏は、美術を通じて、子どもたちの創造的な人間成長を促す思想を提唱していた

JIC真岡は、久保氏の理念「創造美育」を推進してきた

我々は、過去の事業を検証しもっと自由な取り組みで参加者の個人開発の機会を提供する事が必要であると考えた

子どもの意識を変化させることは、子育ての考えを変化させることである

大人の意識が変化することで、子どもはさらに成長できる

子どもがよりよく成長することで、未来の社会は心が豊かな平和な社会になる

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

概要:

JIC真岡は、親子の個人開発の機会を提供するために、以下の事業を行った

- ・私たちは、創造美育の理念を学び、個人開発に必要な価値観を学んだ
- ・私たちは、過去の事業を検証し、私たちが伝えたい創造美育の理念がより伝わる事業を考えた
- ・私たちは、地元の家族に多く参加してもらうため、地元の文化「陶芸」を取り入れた
- ・私たちの事業には、地元の親子 235 人が参加した。
- ・事業の募集は、2 週間で満席になるほど、反響を得た。
- ・事業では、親たちに創造美育の理念を説明する講演を聞いてもらった
- ・事業では、子どもたちに自由な創造力を持てるように、陶芸で必要な粘土を使って遊んでもらった
- ・講演を聞いた親は、子どもの作品作りを手助けする過程で、創造美育の理念を実践してもらった
- ・親たちは、創造美育の理念を実践することで、理念の大切さと難しさを学んだ

全部で 400 字以上

主語を忘れないこと、単語は 7 つ以下で 1 文とすること

結果をきちんと確認しないとココは書けません。  
解らない場合はすぐに関係者、参加者にアンケートをとり  
関係者からのプラスとマイナスの評価を入手して下さい。

**結果：**

JCI真岡は、参加者が自らの自立を意識し、積極的に行動する市民を増やすことに成功した。



	<p>事業後のアンケートより。</p> <p>自由な発想で作品作りをできた子どもは80%に達した 事業後のアンケートより、 自分の子育てを考えなおし、新たな行動をする。 と答えた親は70%に達した 特に親たちは、創造美育の理念の意味を理解した。 今後も実践していきたいと答えた人は90%に達した</p> <p>子どもたちの自立を促す、親たちの積極的な変化を実感した。 地元の未来の心豊かな平和が来ることを実感した</p>

主語を忘れないこと、単語は7つ以下で1文とすること

## 行動:

2011年12月19日	実行委員会が、創造美育を学ぶ
2011年12月20日～1月20日	事業の検証と、検討
2012年2月19日～4月10日	事業概要の精査
2012年4月16日	事業の広報(学校などにチラシ配布)
2012年5月15日	参加状況の確認・事業の準備
2012年6月1日・8日	事業リハーサル
2012年6月10日	事業の開催(参加者 子供109人 大人126人) アンケート回収・参加者のヒアリング
2012年6月29日	アンケートの集計・検証 協力者へのヒアリング

全部で 200 字以上  
2000 字以内程度

【事業の流れ】

12:45～ 受付

13:00～ 子どもたちは、粘土遊びのできる会場に移動して粘土遊び

14:00 ※粘土遊びは、子どもたちの自由な創造力を引き出すものです

13:15～ 大人たちは、創造美育の理念を学ぶ講演会を受ける

14:00～ 講演会終了

大人たちは、陶芸体験の会場へ移動

14:00～ 陶芸準備

14:30

14:30～ 陶芸体験

15:50 ※親たちは、創造美育の理念を実践する

子どもたちは、自由な創造力を使い、作品作りをする

15:50 終礼

16:00 解散

考察や推奨

今回の事業では、親子の個人開発の機会として、十分な成果を出せた ・子どもたちは、創造力が豊かになったために、概念的ではない自由な作品作りをできた ・親たちは、子どもの創造力を引き出すために、創造美育の理念を実践できた今回の事業では、親子の積極的な変化を実感した ・JCI真岡では、成長のステップに基づいた事業の組み立てをした結果だと感じている ※成長のステップとは、考える→発言する→行動する→反省する 考える :親は、創造美育の理念を実践するために考える 発言する :親は、子どもたちに教えるために発言する 行動する :親は、創造美育の理念を行動する 反省する :親は、アンケートの記入の際に、事業の中で行った事の反省をする

Blank yellow area for notes or comments.

Blank light blue area for notes or comments.

Blank yellow area for notes or comments.

Blank light blue area for notes or comments.

JCI真岡は、広報活動を少ししかしていなかった。けれども、多くの参加希望者を募る事ができた

理由としては、地元の陶芸という文化を取り入れたため、多くの親子に興味を持ってもらえた事である  
参加者へのヒアリングでは、陶芸体験をした事がない親子が、50%以上いた  
参加者へのヒアリングでは、「創造美育」の知名度があり、事業に興味を抱く親が多かった

以上の事から、予想外のよい結果を得ることができた

事業の時には、地元の歴史や文化を取り入れることを推進する  
また、過去の事業の検証をしっかりとるようにする

JCI真岡は、予想以上の参加募集者に対応できなかったため、多くの親子に体験の機会を提供できなかった

理由としては、事業計画の段階でさまざまなシュミレーションを行わなかった結果である  
実行委員会は、会場の収容人数の見込みで事業を行った

以上の事から、想定外の悪い結果が出てしまった

事業の際には、さまざまなシュミレーションを行うべきである  
会場の収容人数を超えているのであれば、午前の部、午後の部、と2回事業を行う等、  
体験の機会を提供する努力が必要であった

今回の事業は、創造美育協会から、素晴らしい評価を頂いた

- ・当事業は、いままで行われていた創造美育の事業にはない、新たな取り組みだった
- ・創造美育では、概念にとらわれない自由な取り組みを推奨しているため、当事業が高い評価を得た
- ・今回の事業は、はじめと終わりの親子の気持ちの変化が目に見えて分かる事業だったため、高い評価を得られたと感じる